

## むずかしい漢字も恐れない

いままで、むずかしい漢字というと、字画の多い、字形の複雑な漢字がそうだと考えられていました。したがって、やさしい漢字というのは、字画の少ない、かんたんな字形の漢字ということになっていました。しかし、これは、すでに申しあげましたように、だれでもそう考えやすいことではありますが、まったくちがっています。

子どもの生活に、もっとも縁の深いもの、子どものもっとも興味や関心をもつものを表わした漢字が、字画に関係なくよく覚えます。しかも、この点に同じ条件であるなら、字形の複雑なものの方が、覚えやすいようにさえ思われます。

これは心理学的にそうなるはずです。単純なものより複雑なものの方が、強い印象を受けるからです。記憶の手がかりが多いからです。ですから、いままでの考えに動かされずに、字画の多い字を恐れず、絵本にはりつけてみてください。

## 書く指導はこうする

「山、川、草、木、花、鳥、馬、牛、犬、羊、亀、雨、雲、雪、汽車、電車、自動車、手、足、口、耳、目、鼻、田、畑、池、海」など、絵になる具体物は、絵本の絵といっしょに見ることで、確実に覚えることができます。子どもにより、早いおそいのちがいはあっても、かならずひとりで覚えます。あせらずに、覚えるのを待ってください。

このころは、読むことはできても、まだ、書くことはとてもできません。でも、子どもが書きたがるようでしたら、そのまま書かせてもよいでしょう。書き方を教えずに、ただ見ているだけです。もちろん、筆順はでたらめ、形もめちゃくちゃでしょう。それがあたりまえです。書く絵を見れば、だれだってもっともだとわかるでしょう。子どもの書いた、人間の絵を見てください。大きな頭から、いきなり手や足が出ているでしょう。手の指だって、三本か六本か、そのときによりどうにでもなります。

ですから、書いた字が、まるでおばけのようであっても、それがその子の正常な姿であり、悲観すべきことではすこしありません。